

# 土地区画の変遷解説

県公共嘱託登記土地家屋調査士協会

## 近世城下町など史料で

大和郡山で講演会

公益社団法人「県公共嘱託登記土地家屋調査士協会」(安井吉信理事長)は31日、大和郡山市北郡山町のやまと郡山城ホール小ホールで、講演会(奈良新聞社など後援)を開催。奈良大学の土平博教授が「土地関係史料にみる近世郡山城下町の町

割と屋敷地割」と題して講演した。土平教授は、城下町の土地区画の移り変わりについて説明し「大和郡山は、江戸時代の民有地がそのまま市街地として残っている」などと解説。また江戸時代の天明期と寛政期の史料を見比べながら

「町境は水路網で分けられ、これは田原本など県内に多い。特に寛政期の史料は当時一枚ものの図面をほぼ100分の1の縮尺で正確に描いたことが分かる」などと説明した。参加した土地家屋調査士らは熱心に聴き入っていた。



近世郡山城下町の土地区画について解説した講演会＝31日、大和郡山市北郡山町のやまと郡山城ホール小ホール